

ベルリン・天使の詩 (1987)

DER HIMMEL UBER BERLIN
LES AILES DU DESIR [仏]
THE WINGS OF DESIRE [米]

メディア 映画

ジャンル ドラマ ロマンس ファンタジー

製作国 西ドイツ/フランス

色彩 B&W/C

時間 128分

初公開日 1988/04/23

公開情報 フランス映画社

映倫 G

【解説】

「パリ、テキサス」以来、本国ドイツに10年ぶりに戻っての新作は、永年親しんだリルケの詩に触発された、天使が主役の都市のメルヘン。それまで彼が隠し持っていたロマンチズムが一気に開花した美しい映画だ。天使の視点からであればあまねく事象を見つめ得るという着想が、H・アルカンの驚くべきカメラの達成によって、見事に具現化している。天使ダミエル（ガンツ）の耳には、様々な人々の心の呟きが飛び込んでくる。フラリと下界に降りて世界をめぐる彼は、永遠の霊であることに嫌気がさし、人間になりたいと親友の天使カシエル（ザンダー）に告白する。彼らを見ることがするのは子供たちだけ。大勢のその声に誘われてサーカス小屋に迷い込んだダミエルは、空中ブランコを練習中のマリオン（S・ドマルマン）を見そめる。彼女の“愛したい”という呟きにどぎまぎするダミエル……。一方でカシエルが見守るのは不幸な記憶や現実にあえぐ人々。ユダヤの星、爆撃、諍いあう男女……。荒んだイメージが自殺を試みる彼の瞳に映える。マリオン一座も今宵の公演を最後に解散を決めた。ライブ・ハウスで踊る彼女にそっと触れるダミエル。人間に恋すると天使は死ぬのに……。そこへ、撮影のためベルリンを訪れていたP・フォーク（本人役で出演）が、見えない彼にしきりに語りかける。彼もかつては天使だったのだ……。この醜い人間界も超越的な存在にはかえって、色彩と喜びに充ちた世界に見えるのかも知れない。愛の可能性を謳いあげた、優しく力強い作品だ。93年には続編「時の翼にのって/ファラウェイ・ソー・クロース！」が生まれる。

【クレジット】

監督	ヴィム・ヴェンダース	Wim Wenders
製作	ヴィム・ヴェンダース	Wim Wenders
	アナトール・ドーマン	Anatole Dauman
製作総指揮	イングリット・ヴィンディシュ	Ingrid Windisch
脚本	ヴィム・ヴェンダース	Wim Wenders
	ペーター・ハントケ	Peter Handke
撮影	アンリ・アルカン	Henri Alekan
編集	ペーター・プルツィゴッダ	Peter Przygodda
音楽	ユルゲン・クニーパー	Jurgen Knieper
出演	ブルーノ・ガンツ	Bruno Ganz
	ソルヴェーグ・ドマルタン	Solveig Dommartin
	オットー・ザンダー	Otto Sander
	クルト・ボウワ	Curt Bois

